

英国でおもちゃ探しを Child's Play

贈り物を選ぶのが苦手な私ですが、先日、ロンドンのあるお店で、姪っ子へのプレゼントを選ぶために、約2時間も過ごしてしまいました。実のところ、彼女はなんでも喜んでくれるので、プレゼント選びに苦戦したというよりは、長い時間私自身が楽しんだといえるでしょう。

そのお店は、ロンドンのリージェントストリートにある世界で最も大型の玩具店で、地球上のどこよりも、おもちゃやゲーム、トリック、遊び道具が見つかる、[Hamleys](#) (ハムリーズ)。6階まで売り場があるHamleysは、ぬいぐるみの動物が特に有名で、ドイツ、シュタイフ社の貴重品を含めた非常に多くの種類のクマを始めとして、珍しい種類の動物のぬいぐるみが揃っています。

おもちゃの種類とともに、素晴らしいのは、スタミナが切れることなく根気強くおもちゃの実演をする人たちです。私が通りかかったときに、小さいけれど要求が多い子供達にカードトリック、ブーメランやラジコンのヘリコプターの飛ばし方を教えていましたが、帰りがけに通ったときにも続いていました。私も小さい子供達を教えたことはありますが、未だに心の傷になっている感があり、彼らを本当に尊敬します。

ちなみに、Hamleysの3階にはハローキティのコーナーがありましたが、日本人の皆さんをあまり見かけませんでした。ハロッズやセルフリッジの代わりにとなる、楽しみの殿堂 Hamleysを訪れないのは、なにかチャンスを逃しているような気がします。

Hamleysの心地良い雰囲気は、昨今、英国が子供にとってよりフレンドリーな場所になっているという良い例でしょう。英国人も、子供時代を‘golden age(黄金期)’として祝い、存分に楽しませる日本人の優しい考え方に近づきつつあるようです。また、英国では、‘seen and not heard(いても静かにしている)’のような伝統的なキャラクターから、Buzz Lightyear(バズ・ライトイヤー)的なキャラクターが人気を集めつつあります。子供たちをいかに楽しませるかに時間や能力が費やされ、洗練された新しいキャラクターが次から次へと登場し、大きな商業ビジネスになっているのです。機関車トーマスでさえ、擬人化されたおもちゃの世界で、機関車 Chuggington(チャギントン)というライバルが出現しています。

私の子供時代への‘the golden gates(輝かしい入り口)’は随分前に閉まってはいますが、時折、柵を越えて覗き見することを楽しんでます。Hamleysはそんな場所のひとつで、その他にはイーストロンドンのベスナルグリーンにある[The V&A Museum of Childhood](#)でしょうか。ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館の一部であるこの博物館は、アンティークドールから最新のおもちゃやゲームの分野で様々な展示を行っています。子供はもちろんのこと、あらゆる世代が楽しめます。

ちなみに、‘child/children’という単語は、英語ではかなりフォーマルです。口語では、‘kid’という単語を使うことが日常的です。歩き始めたばかりの子供は、‘toddler’という単語がより正確。形容詞の‘childlike’はポジティブな単語で、外見が人並みはずれて若々しい人を良い意味で表現します。一方、‘childish’は同じ意味でネガティブに使います。日本語の「わがまま」に対応する英語は‘spoiled brat’。

姪っ子のプレゼントは、機械仕掛けのピンクのプードルにしました。鳴いたり、歩いたり、尻尾を振ったりし、キラキラと光る小さな装飾品つきの首輪をしています。姪はルーシーと命名し、なぜかスカートをはかせました!? 私が楽しんで選んだように、彼女も楽しんで遊んでくれるといいな。